



岷江入楚

真本柱

才杰

特別  
12  
4604  
30



43  
712  
4604  
30



真木柱

元七歲 太政大臣

小汀文庫

十月比右大納依并君媒介見泰西對始君也  
 三日秋御消息内源氏君以沙汰事  
 上月内侍所女房奉内侍上御方也  
 大將為吉河源氏君後内侍上御洋物給行也  
 内侍上可入内间也  
 大將本官煩為氣也 或名言御女言不有始君母後也  
 父家欲在後大將本官也我君也  
 大將与小方物強行也  
 大將欲出尚侍許也 晚小方物大取也  
 翌朝大將送文也 尚侍許陳先夜不香子細也  
 本之君与大將君贈卷也  
 大將出尚侍許也  
 大將還左里見女君也  
 或秋御言奉後大將小方也 始君言奇持言不夜也

同官北方慈源氏也

大納言或了之文恨中納言

大納言伴男君十歳八歳還京里也

永八歳回

正月尚侍奉内也

辰香殿東面為曹司

男階也

大納言復職曹司之時也了之文後有稱自大納言也尚侍

曹司也

其夜主上渡御尚侍曹司也

尚侍退出也

主上有御消息尚侍申返也

二月六日院送消息也尚侍也

海氏君彈琴秋風伝也

三月後西狩見山吹花也

鴨子送尚侍也

大納言返也

七月尚侍生男子也

柏木及中納言常各尚侍許也

在江原振舞也

河之秋の中納言もなほあはれとて、西遊の秋の也  
言いし其の末もあはれ也



ていんやむ正月その氣持し一杖具にほと

うらにきうしめんともかうし

そより、梅忠の太刀を弁のおと、とまりとて玉鬘志り  
かうしそめしらす也尚ほは物居てしきり入田ふもな  
きはか、海本のあまは内はまきりめてふに、あまは  
るをれい、まきりく人、まきりし、あまは、まきり  
人、まきりまきり、あまは、源氏君し、由大信し、まきり  
本、まきり、あまは、まきり、の、月、まきり、まきり、まきり、まきり、  
むり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、  
まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

弁  
源氏の名也

まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、  
まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

志し人

源の名也世界にあらまきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、  
まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、  
まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

源の練也

所もえつこ

梅忠の御名、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

か、あまは、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

太刀の名也、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

い、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

梅忠の名也、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

い、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

石山寺近江國瀬多南一託野武天皇御宇金秘考

他人建まきり、勅付園屋巻早

う、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、

ら、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、まきり、



行ししゆゆれすつる源のすもむつと今叶は  
源のゆふし梅思をゆゆれすもむつと今叶は  
あふれつる年都より存すも又事死しはも  
介思ふふ庶幾むれり安く

行ししゆゆれ 大おのゆ方世とのゆゆれしは  
いしゆの字源しゆつとゆゆれしはゆゆれしは

ふふゆゆれしゆゆれしはゆゆれしは  
実父とゆゆれしはゆゆれしは  
ゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしは  
ゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしは  
ゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしは

人のゆゆれし

ゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしは

儀式 殿 進三

大おのゆへの儀式とゆゆれしはゆゆれしは

大おのゆゆれしは

ゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしは

ゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしは

ゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしはゆゆれしは

ゆゆれしは

巧 論法 場 日記



を乳く 音無  
ちたよ

田舎のなまはうらまきまのりより大おのちつ  
まきあゆむをいぬへまきまにまきま  
杉田又内大臣の殿殿女御のちまひまひす  
をちやまきまをまきま

こゆわらうらまきま  
源氏君臨ふしゆまきま女御のちまひ又ちや  
まきまをまきま 田舎のなま

閃側尚書

なまはうらまきまのちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ

田舎のなまはうらまきま

源氏のちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ

田舎のなまはうらまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ

あまのちまき 淡竹のちまひ  
三日のちまき

源氏のちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ

源のちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ  
まきまのちまひまきまのちまひ

わさめめあま 国日

五三つとこけりん

実父由大佐の源のちをこそととふ

かうしのみまふ

けい源のちけりふあまのちまふ本なれとふあひあさ

実まふりまき梅思よひまふ本をのりり人るりいひつ

いふろとふあひあさ

えり小まきさうめてざり

<sup>秘</sup>天聴少し逢する

とせとふあひあさ

いふりいかに

九 足ふのち大如所左ととけりめひおと

和といふれ業一

葉と里亭下辰かう高侍ノ職なり元とのりめ

乃源くきえん様もあつたは其ふびらういほり

よせとそよとけりい業り多しの勅えん

むつとふ

けりいさかきいあひいさかかあはつたはははけ

秘 けりいさかきいあひいさかかあはつたはははけ

けりいさかきいあひいさかかあはつたはははけ

尚侍なれりけりいさかかあはつたはははけ

丸 五月よりぬれいさかかあはつたはははけ

十日神祇官始供

十日神祇官始供 十日神祇官始供

上卯日相嘗祭 宗像祭

明日齋院神乐 上巳日山科祭

上申日平野春日

杜本 當麻亦登

上酉日松尾梅宮

寧川 當宗中山亦登

中子日大原野登

中丑日園并韓神登

中才日結魂登

中卯日新嘗祭

今晚大庭祭

中巳日齋宮結魂祭

同日大極殿登

中申日吉田祭

同日吉登

下卯日東三條亦登

下未日臨時登

下寅日賀茂臨時登

同夜神手

御事の月一日の... 下申下申下申

会々々々

御事によりて尚侍の... 下申下申下申

尚侍必し... 一様

内侍下... 比々々

内侍司の中に尚侍... 女孺... 乃官なり

私勅

内侍取事

又日賢所

内侍下... 非鏡... 朝夕... 始同殿... 坐仍主上

禁秘... 天守... 始為

別殿... 春興... 是里... 白河院

仰之内侍... 欲上天而女官懸... 衣袖奉

川苗依此... 女官奉身... 護

大御殿ひりし

御事の... の... ひりし... 乃官なり

... 乃官なり

... 乃官なり

... 乃官なり

昔部出書の

うしむろくにんけし人々大おのち老の兄才也あどけ  
こころもち行々くさるよ

にこるしう

昔東條のちを神よりのきねのあすこ妹よのすよ  
こころかくらるよ

大将のちよのちよあ人

梅思の寅人けりよ  
わちあしよ

寅一しりつ行通より人好まめと梅思乃よ

女はけいよ

河和院 饒一

にこやたて

りてわらう

和しり抑え梅思は射て曲しなりよととら  
かくはなるし

極

大おの射して和しりよ海をもとてりて持極わ

因

梅思しりつ行通

をわらふよ

極

おろくのちよ大おのわのよ本也けを源いりし

こころあまきよとらりしとらりしとらりしとらりし

けりよのちよあしりよとらりしとらりしとらりし

和のちよ

和のちよ

いけ思よちよのちよとらりしとらりしとらりし

宮のちよ

おろくのちよとらりしとらりしとらりし

よのちよ

極

源を人のちよとらりしとらりしとらりしとらりし

えらりし

極

えらりしとらりしとらりしとらりしとらりし

此のちよとらりしとらりしとらりしとらりし

かよ紫上のさるふのさるすのりも源のむらあり

源氏物語

源氏のさるふのさるすのり

源氏のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

源のさるふのさるすのりも源のむらあり

大おの仁をまぬ

源の御出あり

女君あやし

おろの御出あり

おろの御出あり

おろの御出あり

おろの御出あり

おろの御出あり

おろの御出あり

おろの御出あり

おろの御出あり

おろの御出あり

おろの御出あり

おろの御出あり

すくもつらよつひのう人  
いそよの太極のあは  
け祀大およまひて今海まじりかしのあまのあつと  
私を舞思の宮をしく風流めあふのつひの人の目う  
けいよこ入源氏君の物よまひ

おののわつなつ力  
あつたのつまよ急  
すつたのまひつ

源の本丁のちをえ入る  
いとわしげ  
あつたのつまよ急

らうたいよのつまよ急  
丸 懐妊のあまよ 同日  
よまにみまれつと  
源のちへおれあつてしんまは物をまよ

私言けお後妙よ源をうけ奉のまよ正月よつとわし  
すらう然ふいふつとあふとわし明年のあ七月敷も  
お後元只あつたのつまよ急  
くちわつたつたはあり

源のあま

おののつらよつひのう人  
いそよの太極のあは  
け祀大およまひて今海まじりかしのあまのあつと  
私を舞思の宮をしく風流めあふのつひの人の目う  
けいよこ入源氏君の物よまひ

見て死ん  
因 此の如くといふに我れも死に定めんといふに  
 うよ人の物とあらんも世なりけり  
 三途也又三途川をばらりよき人の世といふ  
 川の弟事おけん

乃乃乃乃乃  
秘 乃乃乃乃乃

三途川近き 或三途川と云り 十王経に見るなり  
 地獄の形をみたるなり  
 尼ろき川と云り

水深日本紀 水尾 百景 瀧  
 三途川西 の一は乃乃乃乃乃  
 前脱衣波とてうき世ならあつと云り

い前めもろくも終九志ぬか必をへらみつと川と  
 きた下やけりぬと世のうき世のうき世  
秘 け前の糸わきり三途川と云り  
因 三途川は必しなりす也

三途川秘 の一は乃乃乃乃乃  
 善道ト云流アリ非也

善道なりと云々 渡此河三人必趣三惡道也  
一説云 過路をきく三人必け河ヲ渡らばくをさく  
又云 善道中九真途へ移りて中を物立十五經以下  
の文ニ 二七亡人渡奈川受種く若ト説リ善道中ノ  
系相當へり云々

御子のさたくり

或説云 御子のさたくり川をぬくとあるは源氏玉鬘と  
ゆえをよめるは宮初ニ嫁合の男必け川を川にさす  
ふれりて隠密のうにさすはひもとのもゆにに  
り 志すおとあし せりさすはひもとのもゆにに  
ん又しちやまをせし世はひもとのもゆにに  
川にあやさすて大おつじとありさすはひもとのも  
とけあつり云々

玉鬘 尚侍通髯黒大将事

尚侍満子内大臣高藤女 通右大将定國是ホ例也

源氏御つもの名は奈木ありと云 河海流大くお船を  
りや但甚実なりと云々 是はもとを枕して御流  
ありしは定本ののまはりてありては御流  
より川より人ともさすはひもとのもゆにに  
夫婦のさすはひもとのもゆにに 定本  
なりしは夫婦のさすはひもとのもゆにに  
此のすはひもとのもゆにに 枕してあり  
よすもいふ云々

可 秘の系花名の系は同きゆえ

一本云 定本は奇よけ前の河の河二本同河略之  
せめてさすはひもとのもゆにに 河や登りりさす  
心家の名は 葉く 過路無クならんともいふ 其れは  
六折才云々 河を川と名すともいふ 其れは  
うまのさすはひもとのもゆにに 河の河二本同河略之  
川はさすはひもとのもゆにに 河の河二本同河略之



くちり(言)たりよのふ心 他万葉集よき道元  
非は此の物紙りをも使ひてつこりゆんりきん  
まじりり物す吾乃一系んけ第一極矣  
私云心と河海一平也此物かけ奇も百病いりて  
行心道理おけん行万葉集ノ川劫へ

中あやふいりしき

功り志すすいんしのも也

因 冥事あまをさるん

あつしとさるるあまをさるん

世よまきとれ

子のいりり行あしんけ

并日因日

又しるん

かくさくしすえとれ

第日非心琴をたしんけ

しるんけ源のふをさるん

私云心と秘分也

并 冥事あまをさるん 因日

ま

あつしと

いりり

源の刻のふに

しるん

私 流の初也

あつしと

将何まきと

なみの物とやいし

<sup>極</sup>大河の事也 河鎮

<sup>極</sup>らるるまじし 丹波(赤)せんのかた

<sup>極</sup>源の心はまづるふ野て後(心)まじりてさしと

<sup>極</sup>源の心は入内をとりひしこと

私(心)源の心はめりりのま度(心)お遠(心)さるる海(心)の心は

まづるふ野て後(心)れ(心)まじり(心)んと(心)まづる(心)ふ又(心)難(心)思

危(心)中(心)り(心)ん(心)も(心)心(心)り(心)しか(心)る(心)る(心)ふ(心)と(心)ま(心)じ

案(心)じ(心)れ(心)極(心)ノ(心)事(心)也

二条(心)代(心)中(心)心

<sup>并</sup>おろろの父 葵上の父(心)も(心)二(心)条(心)と(心)号(心)せ(心)ん 父子(心)也

<sup>秘</sup>不(心)審(心)九

父(心)行(心)と(心)也

乃(心)父(心)大(心)臣(心)也

私(心)言(心)お(心)ろ(心)ろ(心)の(心)父(心)内(心)大(心)臣(心)の(心)事(心)と(心)ま(心)じ(心)り(心)丹(心)波(心)と(心)葵(心)上

系(心)圖(心)ニ(心)二(心)条(心)の(心)行(心)と(心)の(心)事(心)ハ(心)弘(心)徹(心)殿(心)の(心)大(心)臣

の父(心)も(心)二(心)条(心)と(心)号(心)せ(心)ん(心)とい(心)ふ(心)事(心)ハ(心)あ(心)や(心)ま(心)り

系(心)圖(心)分(心) 尤(心)注(心)ス

攝(心)政(心)大(心)政(心)大(心)臣

葵(心)上

致(心)仕(心)大(心)政(心)大(心)臣

玉(心)鬘(心)房(心)君

二(心)条(心)大(心)政(心)大(心)臣

弘(心)徹(心)殿(心)大(心)臣

四(心)君 致(心)仕(心)相(心)國(心)方

案(心)じ(心)致(心)仕(心)大(心)政(心)大(心)臣 <sup>侍</sup>玉(心)鬘(心)房(心)父(心)大(心)臣 ハ(心)二(心)条(心)乃(心)太(心)政(心)大(心)臣(心)乃

解(心)り(心)れ(心)と(心)し 二(心)条(心)の(心)高(心)了(心)を(心)致(心)仕(心)大(心)臣(心)傳(心)れ(心)る(心)也

着(心)草(心)卷(心)に(心)源(心)氏(心)勝(心)月(心)長(心)を(心)か(心)よ(心)り(心)て(心)あ(心)ひ(心)り(心)可(心)二(心)条

高(心)了(心)の(心)故(心)に(心)け(心)り(心)り(心)多(心)勝(心)月(心)長(心)と(心)す(心)る(心)事(心)ハ(心)あ(心)り(心)と(心)み

え(心)れ(心)は(心)是(心)も(心)不(心)審(心)只(心)計(心)事(心)ニ(心)及(心)ら(心)り(心)也

こゆへにきくは

源のついですのよゆらややこゆへのゆか文也  
物(すす)にむせ源のゆきよんゆかゆか

わんわんもろくく  
むつて

いかにあしむる海

むつてのさくらくくく海に源のゆかあしむす  
なむゆしてなかりくくくくくくくくくくくく

くわん(ま)  
むつて

くくにけり終えす

大和のゆか時もさゆきくくくくくくくくくく

大将の方(むつ)のけり終えす源氏のゆかゆか

とゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

ぬ源のゆか也 九日 関日

私之秘ノ系を不審也或は 九禪又関去ノ系を疑也  
け次ノ河ノ由(系)終えすゆかゆかゆかゆかゆか  
このばあてゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか  
てとありゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか

うら(系)終えす也

美田のゆかゆかに大和の事(ゆか)ゆかゆかゆかゆか

ゆかゆかゆかゆかの為(ゆか)ゆかゆかゆかゆか  
ゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆかゆか  
とゆかゆかゆかゆかのゆかゆかゆかゆか  
か(ゆか)ゆかゆか

ゆかの風流(ゆか)ゆかゆかにゆかゆかのゆかゆか

私云源氏もふらりていふふもてきくもくもく  
世の人もてをくくくくくくくくくくくくくく  
又けあの河はゆつていふもてわくありて大侍のくく  
ておこりてふもていふもていふもて

日くくくく

舞思のそくもきく

うらすくもりつるいふいふ

井 水方の物のゆいふらきくもて

舞思の水方物のゆいふらきくもて

まはひしてくくくくくくくくくくくく

まはひしてあつてくくくく

水のさびかりなまてくく

大物のゆい

舞思のゆい 水のさびかりなまてくく

をいひ思の今もけはるもてくくくくくく  
水方の腹も男も女も人あつて系圖もく

あつて

大物のすくもて女も男も人なれはくく

なもえさくくくく

ひらりひらりすくく

物の一ふいあつて通屈のなま

一方し

人のいふこと

曲もまきくくくくくく

女主人はむより

<sup>極</sup>大おのち其ま

けり人ともまぢりみこ

<sup>極</sup>足希乃親まけり

いみじくわつさ

舞思のちり水方父或るまふりつまけりこ

いこらなま

舞の心もの事

わやうまけり 河強しうま

おのちりあふまにけり

数年物のけりまけりてありらあまけりま

てけりてけりま

うけりま

物のまけりたる時本公とうりま

心中しあくれ

舞思の心方のいかり

人ともまけり

<sup>用</sup>舞思のちり水方を柳まけりけりま

あけりま

まけりまのまけりま

かのまけりま

水氏まのまけりまのまけりま

ま

大おのちり水方を通を疑しけりま

い

まけりまのまけりま

まけりまのまけりま

一本如此流く回まけりま

ま

まけりまのまけりま

まけりまのまけりま

まけりまのまけりま

まけりまのまけりま

まけりまのまけりま

人しるくて

俗よりのらるる百うとよゆの事也

人きく<sup>秘</sup>くしるる

河 松浦川の川上に家ありと云やうとありてありき  
松浦川の川上に但玉の川に射松浦なり河内松  
浦なり玉の川とあり

河 何ぞと云ふは老翁の羊の心と云ふ事やうしき

秘 心と云ふは心

秘 心と云ふは心

心をあんと云ふ

秘 心をあんと云ふは心と云ふ事なり

心也

或るまの、心也

心と云ふは心と云ふ事なり

松浦川の心と云ふは心と云ふ事なり

心と云ふは心と云ふ事なり

まのひんしの心

或るまの心の東射松浦也松浦思の心なりと云ふ事

まの心と云

松浦の心なり

松浦思乃心方の心なり

今に云ふ所の心

秘 一かより心なりと云ふ事なり又云つり松浦にありて

心と云ふは心

心と云ふは心

心と云ふは心 秘 本上は此点

松浦思の心方なりと云

秘 心と云ふは心

秘 松浦の心也 或は心なりと云ふ事なり常々云ふ事なり

心と云ふは心

松浦の心の心なりと云ふ事なり

河理痛

ひりきく

私をみるけり

初 大おの心を私をみるものと云うつものよきよき  
心よいとあれと

梅思の心中は小方をあれと云うまよと  
何んかよ

梅思の小方にのゆふ記

ひけ思の小方の好記物(言人)よおはらすをいひ  
のよめてこそよ(よ)物をい

ひりきく

小方の力しうしけけらるる所のこえうらりてこそと

うしりちり

大おし何れとせひあふ

世の人かもぬ

おのけをうり

梅 物の氣をとり私に流るる思を(も)い

え所しありと云うまよ心とて

梅思の私に流るる思を(も)い

と云うまよ心とて

と云うまよ心とて

初

ひりきく

九圓お同く

私を心をもてて

いりきく

いりきく

老い角よや小方のあれと云うまよ心とて

女の心のみりり

女に遠くをまよ心とて

私に遠くをまよ心とて

いりきく

いりきく

ひとわり見ゆいめ終

此の一途のやうを見終りて其のたつと年暮ら  
まりを記つるは終りゆきてし志りぬれりや守本也  
家の事なりし

社 女に其の父文家の同意しつる事ありし事  
おもやふか

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
りやうなりすゆんゆん、吾思ふなりし事

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
私を急物の時なりし事なりし事

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
し事なりし事なりし事なりし事

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
し事なりし事なりし事なりし事

極 此大物のしりし事なりし事なりし事

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
し事なりし事なりし事なりし事

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
し事なりし事なりし事なりし事

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
し事なりし事なりし事なりし事

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
し事なりし事なりし事なりし事

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
し事なりし事なりし事なりし事

河 さらばなかり御なるも水原に、業しきこと終るなり  
し事なりし事なりし事なりし事



あつてをわけり

同 鏡 卷 漢語抄 痛中しくおかしきこといひん

并 別建する事の約

小字の約 教方の本よりとてあて父まの品人をとり  
るふとせ

まの品人をとりぬその後よりきき行ふはいとわい  
ううき方のゆりぬくまきやふらぬなれをばれ  
いしりめていふし物なすひゆりそとをうらこひま  
終つらういけなり

わなれらるゝすなれらるゝ

私といはれ流抄よりまの品よりくはるまてい後皆わ  
の約を教方をとぬのけはもうぬとその物とらし  
ひらしてとりなれ父或るまて下をとりて中  
アまをその後よりきき終へもくまきとせうま  
力のゆりとは別方の世人の包うふしあぬ父ま  
の事なすく川 昔かかほくまきとくくくく

とまをなれらるゝと別方の本をとりかやうに  
あまはすなれらるゝ今りあつる本のやうな  
くくくくくくく

いとあやうなり

小字のありし海をけ一後より

細い洋 小狭

いふらるゝ 河あつて同字よりいふ

かみりらるゝ

かみりらるゝ 一平といはけう種を

身をぬつ

まつひまの流より又辰下の流をよとをとり  
けりらるゝ

まの品人をとりく

大物の約

或るまの品人をとりく

うららて

お方をいひなむじや

かのういひの  
おつの方

玉のうてあふ  
おつをいひん

私こそいひまは院よりおつの方よりあつた  
うぬくくききまむなる

梅思のいひかろと名のいひ何とせん  
いとあつて源氏の人いひみん

おれをいひつ  
おつをいひん

おつをいひつ  
おつをいひん

海のいひいひいひいひいひいひいひいひいひ  
いひいひいひいひいひいひいひいひいひ

お中らうて

おつをいひつ  
おつをいひん

おつをいひつ  
おつをいひん

おつをいひつ  
おつをいひん

おつをいひつ  
おつをいひん

おつをいひつ  
おつをいひん

おつをいひつ  
おつをいひん

おつをいひつ  
おつをいひん

いそぐみしそくんとん

秘 親方よりとらつて又まの所方へつるも人と西国より

秘 弟方の水の心

秘 業上と

と人よわにそのしきふ

秘 此方のいりうとたれいりふ

とらふもよそぢのそぢつる人なり

秘 或る人よりいふもよそぢを業の生長ありいりれ

と他人しきなりいふ

末のせよ

他人しきよそぢ業の生長して後とよふ

秘 他人のぢやうら

秘 業上とよまのいりもよそぢの多しぢやとよふ

秘 是を大物よわせよすを業上のいりもよまのいり

いりていりぢや

秘 ぶうつを大物よわせよすを業上のいりもよまのいり

ちて一終つていり或る人のいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 何れもいりもよまのいり

秘 大將の約

業上と

いほきしはあつ

<sup>平</sup>けしとのすぢ

世とにまゝ人のいふまじのいふて強力をまゝ人あり

せむらやうかき人進出申て人のうまてのみいひて

アのらまの(き)こと

かゝる行とまはる人うへ

梅思のより力のすぢをま

人のいぢやけなく

<sup>祇</sup>或るまをとり **昇** 岡

松と或るまの先南若りたてとやうこのよ世と

いひまゝいふまゝいふまゝ

日ひ日りかて

いひまゝいふまゝいふまゝ

くまぬまといふまゝ

<sup>極</sup>大物むつ(の)いふまゝいふまゝ

言つていふまゝいふまゝいふまゝ

わりのりつぢ

いほきしはあつ

<sup>極</sup>いほのす

中くもつけて

つこつきて

いほきしはあつ

<sup>極</sup>河海トみ

日本紀才七日賊有殺王情王謂日本放火燒其野王

知被欺則以燧出火向燒而得免或傳也

日平或言東夷を征し河内後河を賊徒野を

燒し十米飯を奪たり行て向燒たれ下

あつ人の腹を奪るを奪るを奪るを奪るを奪るを

腹を奪るを奪るを奪るを奪るを奪るを

いほきしはあつ

水方の所也 何れつまらやうにめいしてふ

いほきしはあつ

かじしやもされし

<sup>秘</sup> 格子と来入しともありて候

水方けしきを

毎思のふあつぬと候なり

よもやぬありや 河平居しわいそゆん白雲其方帯新のよもや

うのし終 せううへにせよと水方けしきを

しにかたきと

<sup>秘</sup> むわれとよふあつぬと候なり

<sup>秘</sup> 大竹乃白

け富のうたにうきこしとらんの花よ

れふれこり

えもりえむうへと書札のあんとくらしきと候なり

そをすのうへ人のいふとせうこつみす

<sup>秘</sup> 源内大長

ひりちよ

ひりちよふもぬを袖れけん

水方よ毎思のふあつぬと候なり

むらう

むらうをうへにうけて二とふくわよへのいふ

かつ

かゝるはよと候なり

あらし

<sup>秘</sup> 水方の初

毎思のふあつぬと候なり

為よしうつてんくあつてんく

秘 けりてんくしんく

秘 けりてんくしんく

神のけりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

まをのうりうり... けりしんくしんく

けりしんくしんく

けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

秘 けりしんくしんく

いつまでもおふしあらずに旅籠もの人のわが不本物の  
世をさる所供の人の富の恒をを夢あやうに  
まふふあつて

らやくはむお運をいえてあつたはよ

中わりのさあわれのあ

よあせや 水鏡の今よあつたの物えすあ

あつたは

水鏡

水鏡

水鏡なるあの下なりつた火さす

水鏡は川入る火よりあつた 昇日あつたはあつて

いふくあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

人の足あつた

河原、磯や

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

水鏡の今よあつたの物えすあ

<sup>秘</sup> 呼叫也

よ一乗さるれいさ

<sup>秘</sup> ものまの加ねをれてさるれいさるきまにさるれいさる

<sup>秘</sup> 行者のうらつまつまをさるす

よんさるれいさるなり

よんさるれいさるなり

よんさるれいさるなり

風流めすありのまをさるなり

<sup>秘</sup> 雲よおの府の春にさるれいさるなり

<sup>秘</sup> 雲よおの府の春にさるれいさるなり

<sup>秘</sup> 雲よおの府の春にさるれいさるなり

<sup>秘</sup> 雲よおの府の春にさるれいさるなり

及つちるれいさるなり

後撰雷のすくさく日女のりさるなり

又 云々

河一舟

秘 実けりなり

風流めすありのまをさるなり

よんさるれいさるなり

よんさるれいさるなり

よんさるれいさるなり

よんさるれいさるなり

よんさるれいさるなり

秘 大将の心也



戸上のちまろ

④ けしき生得はつと人となり世を舞思のつとれを  
ゆゑあそぶるれを

けしき

を 氣味や ちまろきん

にあらさくのすまもめやせしむし行は

けしき けしき 物つけらにのしゆき大物の世世来を

けしき けしき 終てよりつらゆらゆら

にあらさくのすまもめやせしむし行は  
に花きけ初はけしきつとれつと今終しつとれつと

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

火より香いしてつと

いし  
河魁考子經  
しん  
しん

あふん

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき けしき

返舞まきのまき  
いりまき  
とをさうさへしはさへくはくゆり娘そりしつらさふ

九 大物の返り

とゆり娘とと後悔しつらさふの心をれりと祇持  
れい歩法妙弟を果てさきとをさふの物乃を  
の亦をれをさへりしとく大物の名をさふ又けた丸の  
灰をたいてく駄部のさあるん

こよめかた

小のさうのあまふあるおまうのまをいぬあ  
くこと

あうん

中間りのさうさあつめを法又は二佛の中方とよ  
おつて小のさうしつて二佛の中間とよさうとくまは

一よはり乃魚さ

おつてのまにおま

久しうはり

おつてのまのこ舞のぬま

何骨

私ませ骨のこらなやとらくことくがくまよふ  
わらゆきたをゆり

何らへらつて終つて物まこれらやうのおまもいひそ  
そらるまよさあ又そまそりまをさるまをたたり  
の灰まをさるまを

舞のまのま亭かもつてははるまよのまホリー  
小のわらひはらつて終るま

舞の男女の子

女のまあり十二三

私まきたりしつらさふ

けしきぬんとし

おまにはかろうう人しと

あゝ言まてあひら

成るなま

あてんつらもれ

父まのちあすは舞思のふやいけりうれあをさうは

海をれ日一版のうらたはうら雨目のあすす

行りう 河を面

なめあし

父まのちいふ前中しんり

おまのち

舞思のお方

世中そのあを海し

おまのちんり

かゝるま

いじうのちりう

人のめいじんい海を

ほめては思ふしうたすしせまぬい

人のこりあゝじんあをんそくか父まのち(ま)う

行くと一入かすしあしとあひてうま

うら行あ

いせうのまんり 舞思

左き果皆成るなまのちいお方の兄中むううる

中將侍臣ア冬柿

舞思の金中や同成るなま息は臣ア天憫は任を

あすすり勿論ん 一動はしあ此は任勿論

いよりなるは行ぬい

け福天物のあををゆりて任あ

せうけ

成るなまあゝし行くといひん

いなるの 秘あこり

志のしを終りん

けしき或るのまはらふなりしゆつて又しきり  
ゆるかりてかゝる退教す

けしきハ志すめとす

かゝゆきもまはらふのまはらふめをせしむ  
母君とれん

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

けしきハ志すめとす

じいぢぢぢぢぢぢぢ

継母の物故は婿を父に怒りかひて継母のいひ

よりてなるといふ物也 并す

或る世の物故とて継母のまゝをうけ継母

にたれ継母もあつたき

時よららひ人よとて

継母のいひをいふ事也

師してそのやうに

父子とよれりといふ

小方の母といふ取らりてまゝてあつたやうの事也

来ぬまじりては杖をたつた事也

私まじりやうに現物分をたつた事也

かへりあつて

中へいひてはつた事也

日しつゝ言あつた事也

おろろくわかれなりといふ

いさやの連行りかん

因風の吹あせんとて

いぬも殿はつた事也

枝根もつた事也

かへりつた事也

大物といふ物なりといふ事也

いふ事也

継母は大物のをまゝにうけつた事也

かへりつた事也

継母の父大物といふ物なりといふ事也

いふ事也

大物を継母のいふ事也

いふ事也

秘

日く九條にむろくのひしきりきまふはれあふ  
るいふふとて

秘  
私に小方の名を申すはかくさるを密にせしむる詞は又  
いふ事の子の地丸

九  
大将の息とむろくの言にたすりてしてよと日言はれい  
てつたてんと掛置候也

秘  
私に平と申

つひよりのおおひんしむりての極

秘  
はせりん所あり候也

秘  
姫君のいふ文のつと

秘  
桂皮紙 芝のいささきとてあらさ

秘  
あつち極の文よとせり事

秘  
今より宿れぬもたれまつたの極はれをいせれか

秘  
われなり事 せりま本極の君とつり

河  
披極日記 真木柱

六  
まろ極つらぬ私人いふ事たりあひたり候りけり

母方

秘  
あつち極の文よとせり事

秘  
極の極の極もともつらつたのわりもいせれり

九  
あつち極の文よとせり事

九  
あの極の極のもろとせその極かり極もいせり

九  
その極の極の極もいせり

九  
かやうにこれとていふ事

秘  
りり

秘  
大将の宿女と申すは女系申すの言をいせり

秘  
あつち極の文よとせり事

秘  
石間のあり申す

九  
いせり事

九  
木五君のいふ事

秘  
私に極は石居のあり申すといふ事

秘  
木五君のいふ事

秘  
かきつれと申す

あまのいかにとゆきや中ねのいかにとまてつる也

あまのいかにとゆきや中ねのいかにとまてつる也  
いかにとまてつる也

かゝるいかにとまてつる也

文選列賦 視喬木於古里ト云

視喬木於古里 詠北梁が永辞

江文通 別賦

又ニふれり人まへとこころと也

大ねのいかにとまてつる也

宿のいかにとまてつる也

私云同一句代末を替へりてつる也

まよひまらちより

いかにとまてつる也

いかにとまてつる也

一交嫁娶して後、ねてつる也

なりと也

いかにとまてつる也

花 紫上の継母也 昇よりつる人のいかにとまてつる也

いかにとまてつる也

いかにとまてつる也

源のいかにとまてつる也

いかにとまてつる也

又後漢書 賈復 輕歌 論語 非歌

又後漢書 賈復 輕歌 論語 非歌

いかにとまてつる也

項羽本紀

女所をいかにとまてつる也

冷泉院の女所 或る女まの所 女まに 入内り 秋好中ま

いかにとまてつる也

秋好中まを 入内りて 或る女まの 女所をいかにとまてつる也

やうううううう

心中のうらみとけさる

世間の時世をくわたりてけさるはなり恨心や乃か  
の人文恨も及ば好而知其悪ん

頃片言後より事也他人の恨もまた世上のわり  
をうらむ世のくわたりとを悔しき物な

そこのうらみ

恨のあらをうらむとせよと成るまのうらみの海

い

世の人とらむ

世間もとやうううううと成るまのうらみの海

海

人

世間とを罷り終り吾兄才をくわたりて終すも

まをくわたりて姉妹才見皆列士とくわたりて

か

姉妹才見皆列士

ぬめいとあせと後をくわたりて

一人のゆかりにのりてすもくわたりて

くわたりて海をくわたりて

なのとあせとくわたりて

くわたりてくわたりてくわたりてくわたりて

くわたりてくわたりて

くわたりてくわたりて

くわたりて

くわたりてくわたりて

くわたりてくわたりて

くわたりてくわたりて

くわたりてくわたりて

くわたりてくわたりて

くわたりてくわたりて

くわたりてくわたりて

くわたりてくわたりて



或たのせしやうし 乞ひ源氏のむろつとむいんをうたかれば  
くれうとをなふりしてむろつとをさするとよふや源氏  
しきすのあつれて人あいつたはなつねうとやうく  
もや又むろつとの年の切りつやうを乞ておが私より  
舞思のいれお言をあさすおとら 又むろつと火源乃  
世をあさすとさるや

私をわしとむろつとむろつと源の密通のあをえんを  
私又源のむろつとむいんをよめおれ舞思のやうなる  
法なる人をもいれて舞思のやうにむろつとを  
又私をのせしやうとむろつと源氏のむろつと密通の  
してわしとむろつとむいんをわしたる人のうちを  
なき終へ本におしお銀子のきこわしむろつとむいん  
舞思のやうなる人をもいれて舞思のやうなる人をも  
こよそりてむろつとむいんをわしたる人にむろつと  
ますやとさるや  
いづつとむろつとむいん

源のむろつとむいんをわしたる人にむろつとむいん  
をわしたるや 或るまのむいん  
よむらんとむろつとむいん 何難や

源のむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
しむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
源のむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
は確拠をむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
いづつとむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
まのむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
てむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
つむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
しむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
の病居の時お人のむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
せよそのむろつとむいんをわしたる人のむろつとむいん  
まよお

なのおしりりなにはるまきゆり  
河原のまきゆり

一とせしごせのひまき

或るま五十の河原堂とてあふくやせし女事により

小のほのめいやく 又いあめいやくとあり

今生面自堂との又或るまの五十堂とれしゆり

五十の堂のゆあふく堂院をゆりそくをゆり

いふりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

いふりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

まろくまきあふく

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

この大まこのこをゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

大ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

大ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

まろくまきあふくゆりたあれくふとふきやゆり  
大ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり  
ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

ゆりさうきりあふくゆりたあれくふとふきやゆり

父家のさへはけり行ひあつてさへ追へんしめよ  
と大物のつらさしめ  
而ておごさふさしめ

舞臺のころはたすむとてさう角をさへてさへ  
物をもさへさしめさしめさしめさしめさしめさしめ  
かかれさしめさしめさしめさしめさしめさしめ  
なごうさしめ  
あまのさしめさしめ  
人のまきさしめ

さしめさしめさしめさしめさしめさしめ  
さしめさしめさしめ  
あまのさしめさしめさしめさしめ  
おごさふさしめさしめさしめさしめ

あまのさしめさしめさしめさしめ  
おごさふさしめさしめさしめ  
あまのさしめさしめ  
おごさふさしめ

舞臺のころはたすむとてさう角をさへてさへ  
物をもさへさしめさしめさしめさしめさしめ  
かかれさしめさしめさしめさしめさしめさしめ  
なごうさしめ  
あまのさしめさしめ  
人のまきさしめ

あまのさしめさしめさしめさしめ  
おごさふさしめさしめさしめ  
あまのさしめさしめ  
おごさふさしめ

あまのさしめさしめさしめさしめ  
おごさふさしめさしめさしめ  
あまのさしめさしめ  
おごさふさしめ

あまのさしめさしめさしめさしめ  
おごさふさしめさしめさしめ  
あまのさしめさしめ  
おごさふさしめ



いさあしあふとよりなり

<sup>秘</sup>父母のいさあ終せ并 私よりせといふより地

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

返くまゝしてし

大将のいさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

退くまゝしてし

<sup>秘</sup>

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり

いさあしあふとよりなり



實父よりせられた

うらやもをなれた

口裏からせられたの入り口からせられたり  
昔よりまゝもえり

世をたてしむりし人

いづれもやまら

管の号部でまゝいなりあつていふりりいれり

これ源の跡略をすすむるをせり

そのいふ人のさういふものなりとせり

そりせりつきはななりとせり

私管をすすむる跡略をすすむるをせり

本に所せりしは向てせり

或は日なりあつて

つゝもすしと人の中からせり

大物をしにせり

まもしきつあつてあつて海民のさういふこと  
のほつとせり

むつとせり

いふて梅思をすすむるをせり

あまよりせり

心物のさういふにせり

とゆふけき

大物のさういふにせり

うちふしあめく

私りあつてあつて逆轉をせり

人しめり

海や實父の内大臣のさういふにせり

若やけ人をいふにせり

尚侍 磨女 右大臣豊成室  
尚侍 中細言長良女 右大臣氏宗室

私尚侍の職ありあつて臣下の書室なる例なり

うらやまを

秘源氏元八の年也 并

西宮云 尚侍新任之後詣縫殿陣令奏慶賀之由諸司

立候為侍女内侍一人出来傳奏書司一人相副給祿女裝束

下仕復座散給中宮御内者付内侍令啓慶賀有贈物一襲八

今東内侍の... 陣を海り

て心付一人出立てその... 女

房の装束を... 退出するの... 御所のむら

る... 御所のむら

り... 御見物

男踏舟の事初子の奏あり

この... 大御

源氏や内大臣也 大御の御思

宰相中御移... 御思

せうどの... 御思

兼香殿の... 御思

若辰殿の... 仁壽殿あり... 御思

わにまの女所

河 次泉院女所或る女 母馬不根上三回

秘 尚代の女所或る女

并 兼香殿の... 東西の... 御思

女所の... 御思

秘 和之御思の... 兼香殿の女所... 母馬朱

崔院の女所... 御思

て... 御思

當代の泉の女所... 御思

房の兼香殿の... 御思

これ... 御思

御 御思... 御思

御 御思... 御思





いす中まのい  
御門のいあや中まのい好  
朱産院

院のい

六条院よいいおきしと

有るい

有るい

秘有略  
秘有略

竹川

踏よりい曲 竹川

いの大よのい人い人

い大匠のい人い

い

い大匠のい

秘

枝江のいい世いい

秘

大物殿のいい

秘いの継子

秘いのい  
い

い  
い母のい子母い或いのい女上い

い

い

い大匠のいいのい母のい大匠い

い

いすいいい女いのいいい

い

い

い

秘

いい女房いい

秘

いい女房い

秘

いいいい

い



行ていへる申すされて退むの事作外と今の上  
ありすぐくしやと 河連

いへりしと 秘 今の上を毎のつくさ  
いりしと 秘 大おのい

所しとやうに 秘 定めさるる物を大おの言なき  
ふしと 秘 せられ

河 珍造 ありし昔の人とワリとやと物のれいさる人 并  
私不及けり

うらばけきて 秘 毎の押  
無アマ 管

所おのいあ 秘 治り代後高しや  
ふのい 秘 ぶつとのい

秘 秘 無アマ 秘 大おのい 秘 大おのい

大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい  
河左近衛府曹司アリ 并 直序

西宮 抄云 宿取大臣納言宿房職曹司也 大臣宿在直  
陽殿東庇 大將宿取在直陽門内 廊右大將宿取在  
陽明門内 南廊 右中將宿取在玄輝門東西  
私 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい

大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい

大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい

大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい

大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい

大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい

大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい

大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい 秘 大おのい

団  
み山とあり大木の唐名を大樹とよぶとせし  
私又なりを二言三言歌りあくとよ

何  
何つう歌うとみさめれて

何  
百もさるへつるまに物とありぬれぬれそあり

何  
我をかりゆくとつるをよき事なまうさたり

何  
百もさるの言れは迷懐のなせうにるとありたり

何  
百もさるへつるまに けりとのあり

何  
中へありたり

何  
むろのゆやとらふとひらうらうらとまふまふ

何  
てのまうさるううくとよふのあり

何  
うへつるまに

何  
いと冷泉とむろのつらひとせむ

何  
同じ上内侍のまの店とむろの一枝程にありぬ

何  
うら織とや又例のあら

何  
一各つるまのまの行幸のまの弟とせむ殿上人

何  
とらふとらふと今世の世と典侍の店にありぬ

何  
い返事を思惟とあらぬとせむとせむとせむ

何  
西の

何  
いささらいささらとせむとせむとせむ

何  
けりぬと人のつらとせむとせむとせむ

何  
いよかきうらうら日記とせむとせむとせむ

何  
冷のいささらとせむとせむとせむ

何  
よこふとせむとせむ

何  
かの人とせむとせむ

何  
源氏のぬくまを又まうらうらとせむとせむ

何  
あれぬとせむ

何  
源氏のぬくまをむろのなとせむとせむ

何  
あつと源也源の面とせむとせむ

何  
あつとせむとせむ

何  
いささらとせむとせむ

何  
いささらとせむとせむ

何  
いささらとせむとせむ

何  
いささらとせむとせむ

何  
いささらとせむとせむ

いとつしけしつりしよあしうん

秘 まつるしつりて川く大物よあすまを恨の掛

秘 中てとんるるく

秘 ぬのりららしきん

秘 不をりそくく

秘 わやしうあつあま 秘 勅定也

河 後三位加階ん 秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

主上冷泉

何万 聖つる三位叙するあるん

後 聖つる三位叙するあるん

新 聖つる三位叙するあるん

花 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

秘 聖つる三位叙するあるん

いと冷の川を流す

いづれもあやうい

源氏君の川を流すうらうらと流す人さへ

いづれもあやうい

六条院よたふおもしろい川を流す

いづれもあやうい

源氏よこの川を流すうらうらの流れて

いづれもあやうい

まつりならあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい  
奉公の骨のあやうい  
三位より  
いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

いづれもあやうい

私云わかれし人とは舞の  
おれは舞ののこり  
つらき人の心は  
私のおわりも舞の  
かたまりし人の  
をかきとけぬん

かたむね

おつゝのむかひのうらなひを

まづ

しつゝせのこ

世人の心の海のしつゝ

私じつゝのこころの海は

くろくろのこころの海

連々わたりぬれぬ

大ね

みよのこころの海

まのこころの海

いづきまじり

秘 正出のすなわち

秘 秘 秘

つゝ

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘

秘 秘 秘



今もいりてさうか。

梅忠の名をけりかきりて作し候也

しりのまゝしりぬめし

後撰云大納言國持朝長の家は侍多る女は平貞文の  
にておつひにてり末よりおつひ多る比けおつひに贈る改大  
臣よりおつひより侍多る女は平貞文の西のふりあは  
り侍ける侍多る女は平貞文の西のふりあは  
り侍ける侍多る女は平貞文の西のふりあは  
り侍ける侍多る女は平貞文の西のふりあは

平定文

しりてりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ひ

うらふそつひおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

平貞文しりてりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

しりてりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

りてりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

てりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ちりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ひりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

しりてりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ちりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ひりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ちりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

懐

ちりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ひりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

しりてりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ちりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ひりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

しりてりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ちりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

ひりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

しりてりおつひよのおつひよの侍多る女は平貞文の西のふりあは

せりそふらうふいみよのいりらふとてむくのいふはじき  
ありてはふたれはまはる自文うきけりまのあつをむくの  
なりてはれはまはるやうやれはまはる又えをまはる首の定  
文うまの返るる定文とむらちりてはるまはるはれはれは  
あるはれは舞思のめつれはまはるのまはるのまはるを  
しなりまはるはれはれはれはれはれはれはれはれはれは  
かまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる

秘内侍の...  
西宮記云 輩親王大長中老宿人有此思女親王尚侍

毎出入仰用門吉上

源四太郎の人をかり

元不しゆ...  
あつてはむの...  
あつてはむの...

近衛大将なれ...  
近衛大将なれ...  
近衛大将なれ...

近衛大将なれ...  
近衛大将なれ...  
近衛大将なれ...

九...  
九...  
九...

あつてはむの...  
あつてはむの...  
あつてはむの...

あつてはむの...  
あつてはむの...  
あつてはむの...

あつてはむの...  
あつてはむの...  
あつてはむの...

花をたふし  
しつとありし  
ふまに南の  
風やあつた  
人いふか  
さうと  
口のみ  
いふと  
おれ  
ゆ

花をたふしつとありしは終つてすつとせ  
しつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ

ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ

ふりみくらめて  
みよの還神の二曲也  
旭子ありしの殿よ

ゆいになつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ

父行のむらさきと  
ぎしあまきやうりやと  
何の侍式もまを父四尺長  
てりてしつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ  
ひつとありしは終つてすつとせ

とらりまふいぢぬ 河不進退 秘

源の心を子行火父由石長のまにあらぬよとこれと  
しことと存ふを道で戸つひよの事也  
と余よのそとゆりなつた事しと

源の心はこれの心かまはしに舞のじつあを  
一途かまはしめつた事も所の行ふまじなつた  
女とちやてりあり 河不進退の事よと

河不進退の心はちやてりあり 河不進退の事よと  
秘とてあつた事よと 川不進退の事よと

秘とてあつた事よと 大おの心也 因  
大おの心也 大おの心也 大おの心也  
秘とてあつた事よと 大おの心也 因

め入ぬをたけりしとて  
大おの心也 大おの心也 大おの心也

見よの心 大おの心也 大おの心也  
えんしとてあつた事よと 大おの心也 因  
しとてあつた事よと 大おの心也 因

大おの心也 大おの心也 大おの心也  
秘とてあつた事よと 大おの心也 因

大おの心也 大おの心也 大おの心也  
秘とてあつた事よと 大おの心也 因

大おの心也 大おの心也 大おの心也  
秘とてあつた事よと 大おの心也 因

大おの心也 大おの心也 大おの心也  
秘とてあつた事よと 大おの心也 因

とせむらひのそらもあはれ

みづにぬりし宿世の定めはつらき源のわら

ふのさかきなりけり物なきかみわら

大物の伝しやふはるるけりま

<sup>秘</sup>大将のまきむくし和しつらぬのま

しづききたりし

大物のくらりく知しやうしつらぬかき

世年しよえなかりけり

ぬしうかりそやなる

永のまぬの時ふつらぬのま

おそくそくえな送り

ふらぬし

衣をよせぬてつらけり

しつら何ゆしえつらけり

つらぬ

つらぬしつらぬしつらぬ

<sup>源</sup>

<sup>并</sup>

源氏のまきむくしつらぬ

私をよせぬてつらぬ

つらぬ

源の文のつらぬ

つらぬ

つらぬ

<sup>秘</sup>つらぬ

つらぬ

源の文を大物のつらぬ

つらぬ

つらぬ

つらぬ

つらぬ

つらぬ



人を悪ふ物なるといふ言ふもさるるが<sup>徳</sup>湯<sup>は</sup>とら  
又将時の心をしつ(は)をさしとよんで因志し  
暫時乃么なくさしりのるし人を悪はつやとよま

福の比はなよと好つて

なすかた好つて海に刻つてつてしゆらと

河 人をもてつよのあやのいふいふよのあやのあ

けり及さらん

いんくくくく

河 恭<sup>高</sup>書<sup>礼</sup> 礼<sup>日</sup>記<sup>に</sup> 一々よん 秘教

いさむらけてむらのあつてつて

河 ぬやまぬ水の玉水敷さひきつてまのまきり

あはりまをすしむらむらのあはしあつてつて

秘 朝のつてのあつた面白きつて

河 因志しつてつて 秘つてつて

人をもてつてあつて

河 源の源なる人のあつてつて

あつてつて

秘 勝月未とせのあつてつて

つてつてつて

朱雀院の后乃

河 弘徽殿の太后朱雀の母也

河 ありあり

秘 勝月未のあつてつて

河 ありあり

秘 又つてつてつて

河 しつてつてつて

河 ありあり

河 ありあり

河 ありあり

河 ありあり

河 ありあり

いづれ行よつけてふ

<sup>秘</sup> 自今以後は行まずあをむるなむと

ふけあましのつまなりや

<sup>秘</sup> 玉ころのまつふふとのあよ

<sup>秘</sup> 海のいぶき

此れとつたも

うつくしいま

<sup>秘</sup> 玉ころのまつふふとのあよ

わつりのきりすびぎちて玉ころなり

<sup>秘</sup> 卒志多加戸加毛成戸支井良乃伴今乃也カ毛波万

祢奈加利曾祢比毛頃加祢也カ祢奈加利曾也凡俗上野

私琴五物子ハハハハハ三物子ハハハハハハハハハハハハハハハ

あはれのあけけえんわんおつとよいつたりのの

まよわりもれん

風俗上野言やけまよりのまろりありけり

<sup>秘</sup> 玉ころのまつふふとのあよ

必<sup>秘</sup> 今いふくらし又必<sup>秘</sup> 逢<sup>秘</sup> せんを会めり

後漢杜詩傳 将師 和賸士平 鬼藻 言観悦如鬼

殿水藻とありけんかろく九 并花中勅入

後漢杜詩傳 陛下起兵十有三年将一以玩に

書に鬼藻観悦をけやうに

のやうにちまりく

さひきいふみやま

深の只しのけなむうの足行りく

かめていらは深のいぬ傷をう

うらもほのた

御門冷もむらうのからくあの子わ

あもむしのさいり

うらそやわたりそやあまらみ

さなしき一首不裁く



秘 川奇河三田一區此の時を三北終を何々

いとくさ みよあもれ川の音をつひの心くさ

よきひしやまよふなり

街あこい志のひくし

みよと谷りむううの文なり

刃をうまお

まらくのゆいむうの巾着とれよよ六舞思のぬ

しつちまつつをうすすまよてふしのえううしをくし

么やしらうぬやうしに風流争くさうしつる思のうら

をさう終りまよ

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

吳竹のませしつはよあうちまいこ

山あきのすきやう

まよこころななま

まよまらうまに花がらぬま花のふもつひかたに

口なのたよな花をそめしりいそふよ物をそそ替入

河海よのりつ六北の音おけん又後古しにやあもよまも

いよ山れのたよな花をそめてそまめ 後人けい けい けい けい けい

を山あきに行いしり 後人 再後古しにの音うらいり

六北の音をいさしり

まよすふおけての中みり屋わいしそをさう山あきらふ

むうすなこれりと樹よをくしや行んとし源のよそさ

行しとせこれともさういの行ふつさしとまれ山吹の

及よつせていそをさうつとまらよ申あむつち

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘



ありをばしあててさし終りしはまやうは川を流れてか  
まふ天公果の人はさしけりやうにほくしくましく赤  
しけりやうをさしけりやうにほくしくましく赤  
けりやうをさしけりやうにほくしくましく赤  
しけりやうをさしけりやうにほくしくましく赤

けいよわやまののそいかりや 因縁の地

私を羊の子の地とけいよわさくん終りし時よわは  
くみれ終りしとねさのさくん終りし時よわは  
うくたつらぬれと評しうかたう

りの子此やとあうなるを 秘鬼の子(因)

鴨子 西宮記 秘鴨子事 互くうの子もいり

の秘ふうをあふすくかしのに世にほくしくましく赤  
さくんの子とさし終りし時よわは川を流れてか  
まふ天公果の人はさしけりやうにほくしくましく赤  
しけりやうをさしけりやうにほくしくましく赤  
けりやうをさしけりやうにほくしくましく赤  
しけりやうをさしけりやうにほくしくましく赤

英ムノ行  
三行紙

りよわのあり入りせめらうるさくんとさくんとさくんと  
源の文の風流めあや





ひしよのよきあしをききよるるかきよるるあやかりる  
のよきあしにひしよのよきあし

姫をそよぶ

秘より直る也 并

母を中へのわかれとてり大おのあしへのおまじり

秘より直るの也

け父君をけしゆく

舞を成るまじりなき恨めて連る中のかき

いぬのやうなれはまじりの君父大おまじり

行とこまじり

あまわりし二人也皆まじりの也

人の君のわかれ

大おの息見才おまじり

わらきねしよ

むつりのわかれ

うら

并より直るの也

まじりのむつりのわかれ

秘より直る

男をむつりの細きまじり

わらうねとこまじり

秘より直る也

男よとて 堂吉野源うも

のわらうねとてまじり

物をまじり

そのまじり

源氏亦八月の正月也

秘

男を源氏也まじり

け春の秋もて

け春のまじり

け春のまじり

そのまじり

源氏の時のわら

ふゆを

父仲よし

井田村のゆ

なめいしよあやしがる

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の  
けししつふきふきとらふ心

秘 せつろくは田村のけししつふきよら敷敷うふしおらけ

井 けししつ

せつろくを田村の女しつしつとむつこのゆ

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

柏本七

けししつ

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

けししつ

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

けししつ

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

けししつ

けししつ

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

けししつ

けししつ

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

けししつ

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

けししつ

けししつ

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

けししつ

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

秘 ねんよふきやがる宿せとむつこのゆをなくく田村の

えりし

くまのついで

四府の割禁をしまふ

秋の夕のうき

冬はあつちのあつちをうきつて後よつたりと

秋葉はけき源氏八十八の秋をうきつてははばあや  
まかりしは九月もむつづの骨子をうきつてはあや  
のあつちをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
ひつちあつちをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
かくしんとつちをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
つちをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
つちのあつちをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
あつちをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや

軍中將士

きりしをうき

秘又書也

夕音のつひをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや

平世のまはをうき

人

これらに御殿よりうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
けきをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや

わがまきすや 秘河を具也 平回書也  
けきをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや

近は君のあつちをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
し急いでうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや

とくは  
おきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
みあるくやうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
とくは君の夕音よりうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
し急いでうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
けきをうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや  
とくは君の夕音よりうきつてはあつちのあつちをうきつてはあや



ぬきし一かみをたつりきりし人なやわなるとや  
かりいしむにちみまらりきりきりなやせしむらし  
夕暮のすみの層々のこいけりけりわなるとやよ  
せしれをわらりよらり  
ねと右方の向をいそつらよとせしむらり  
いそつらししれきりきりきりきりきりきりきり  
そよをいけりきり

あめをいけりきりきりきりきりきりきり  
けき所秘のきりきりきりきりきりきり  
夕暮のきりきりきりきりきりきりきり  
物返をいけりきりきりきりきりきりきり  
夕暮秘返してきりきりきりきりきりきり  
お人秘のきりきりきりきりきりきりきり  
いそつらししれきりきりきりきりきり  
ねと右方の向をいそつらよとせしむらり  
いそつらししれきりきりきりきりきりきり

風をいけりきりきりきりきりきりきり

あめをいけりきりきりきりきりきり  
夕暮のきりきりきりきりきりきり  
けき所或のきりきりきりきりきりきり

あめをいけりきりきりきりきりきり  
夕暮のきりきりきりきりきりきり  
けき所或のきりきりきりきりきりきり  
いそつらししれきりきりきりきりきり  
いそつらししれきりきりきりきりきり  
いそつらししれきりきりきりきりきり





